

**日本赤十字社秋田県支部が
災害救援車を寄贈**

2月6日、災害救援車の贈呈式が行われ、日本赤十字社秋田県支部の梅井一彦事務局長から仙北市社会福祉協議会の佐藤清雄会長に模擬キーが手渡されました。同支部は、活動の一環として地域福祉の増進や災害時に迅速な救援活動に役立ててもらおうと、県内の各地域に寄贈しています。



贈られた災害救援車は、仙北市社会福祉協議会西木支所に配備されます。

台湾の高校生と交流深める

2月6日、台湾の台北市立景美女子高級中学（日本でいう高校）の生徒30人が教育旅行で仙北市を訪れました。一行は農家民宿に宿泊したり、角館高校の生徒たちと交流を深めたりしました。角館高校では、両校の紹介や地域の行事などについてそれぞれプレゼンテーションを行ったあと、各教室に分かれて書道や美術、音楽など日本の授業と一緒に受けました。



音楽の授業ではギターを弾き語りを練習しました。

全国中学校スキー大会で好成績を収めた田口慧君。



2月3日、第54回全国中学校スキー大会のアルペン競技男子スラロームが山形県の赤倉温泉スキー場で行われ、生保内中学校3年の田口慧君が5位入賞を果たしました。田口君は「今後もレベルアップを図り、インターハイ優勝やワールドカップ出場を目標に、頑張りたい」と力強く話しました。

**第54回全国中学校スキー
大会で田口慧君が活躍**

家族で記念撮影する清水たけさん（中央）。



2月14日、清水たけさんが白寿を迎えられ、仙北市からお祝いと花束が贈られました。

白寿のお祝い

**ユニバーサルツーリズムを推進
3人目の地域おこし協力隊員**

仙北市で3人目となる地域おこし協力隊員に小林裕高さん（井川町出身）が2月1日、着任しました。中町庁舎の観光課に籍を置き、障がいのある人や年齢、国籍に関わりなく安心して旅を楽しんでもらうユニバーサルツーリズムなどの観光振興に力を注いでいます。協力隊として着任する前は、秋田市内の洋服店に勤務し、飲食店と連携したイベントを開催するなど、地域活性化の活動にも取り組



「春になったら市内全域に足を運びたい」と話す小林さん。

んでいたそうです。小林さんは「限られた期間ですが、仙北市の魅力PR、情報発信に努めていきたい」と話していました。

株式会社ツムラと生薬栽培促進の覚書を締結

2月9日、株式会社ツムラ、仙北市薬草生産組合と仙北市が、薬用植物栽培の促進に関する連携覚書を締結しました。この覚書は、国内産薬用植物の普及振興や仙北市での産地拠点化を図ることを目的としています。今後は3者が連携・協力して耕作放棄地等を有効活用し、薬用植物の実用栽培に向けた取り組みを進めていきます。連携期間は平成30年3月31日まで。年度ごとに更新予定ですが、生産状況に一定の目途が立った場合は、薬用植物の収穫期間に応じた連携期間に変更していきます。



覚書を取り交わした門脇市長、株式会社ツムラの中井洋一郎薬学博士、仙北市薬草生産組合の佐々木英政組合長（左から順に）。

**特別支援学級に
タブレット端末を寄贈**



秋田県仙北建設業協会建友会の小原貴会長（左）から熊谷教育長（右）にタブレット端末が手渡されました。

このほど、秋田県仙北建設業協会建友会から仙北市内の特別支援学級にタブレット端末2台が寄贈されました。同建友会は、これまでも周年記念事業の一環として県立の支援学校に教材を寄付してきました。小原貴会長は「今年は発足55周年であり、ぜひ地元の小中学校に貢献したい」とのことで、今回の寄贈となりました。仙北市では、贈られたタブレット端末を活用することで、「自分でできる」「一人できる」経験を積み重ね、特別な支援を要する児童・生徒の自立と、社会参加に役立てていきたいと考えています。

フカインダーが仙北市をPR

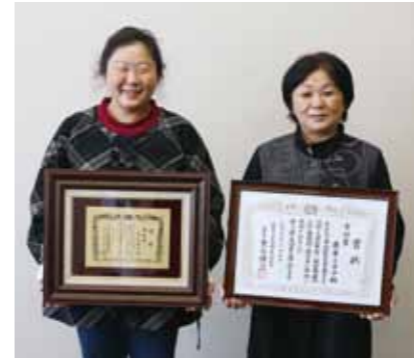
上松木内の紙風船上げで「みちのくふゆほたる」を生披露し、お祭りに花を添えた歌手・松原健之さんのファン交流会が2月11日、ホテル森の風田沢湖で行われました。そのステージには仙北市のご当地キャラ「オモテナシ3兄弟」のフカインダーが登場。ともに観光PRした土屋和久さんは「想像以上に知名度が高く、今後も活動に力を入れていきたい」と話しました。



フカインダー（左）と松原健之さん（右）とのショット。PRは盛況でした。

**日本郷土民謡協会が
地主敏賀さんに郷民章
藤原ミサ子さんに有功章**

2月6日、一般財団法人日本郷土民謡協会の各章と認定証授与祝賀会が東京都内のホテルで開催され、地主敏賀さんが郷民章を、藤原ミサ子さんが有功章をそれぞれ受章しました。郷民章は、同協会の運営に携わり、長年にわたり尽力された方に贈られるものです。有功章は、役員としての実績が高く評価され、同協会の発展に貢献された方に贈られるものです。今回の受章についてお二人は「今後も民謡民舞の発展に貢献しながら、後継者の育成に努めたい」と話していました。



郷民章を受章した地主敏賀さん（左）と有功章を受章した藤原ミサ子さん（右）。